

IV. 神道文化学部

神道文化学部は、神道を中心とする日本の伝統文化の理解及び修習並びに内外の諸宗教及び関連する宗教文化の分析と比較を通して、国際化され情報化された現代社会の発展に寄与し、社会の健全な形成に貢献する人材を育成することを目的とする。

履修について

【卒業に必要な最低単位数】

本学に4年（8学期）以上在学し、所定の単位を修得すれば卒業と認定し、神道文化学部にあつては、学士（文学）の学位が授与される。ただし、1～4年の各年次に1学期以上在学することが必要である。卒業に要する単位数は下表のとおりである。

授業科目	神道文化学科
共通教育科目	36 単位以上
専門教育科目	64 単位以上
合計	124 単位以上

※ 共通教育科目及び専門教育科目から上の表のとおり単位を修得し、合計 124 単位以上修得すること。

【進級条件】

進級の時期は各年度の初めとする。進級するには、各年次において1学期以上在学することが必要である。また、2年次から3年次への進級には2年次終了までに3学期以上在学し、卒業に要する単位で次の条件を満たしていなければならない。

共通教育プログラムの言語スキル科目群で「英語Ⅰ～Ⅴ」4科目8単位のうち2科目4単位、専門基礎科目の「神道文化基礎演習」1科目2単位を含む34単位以上を修得すること。

【フレックスコース】

フレックスコースの変更はできない。

【履修規程】

フレックスA〈夜間主〉コース

共通教育プログラムの言語スキル科目群で必修の英語及び専門教育科目の専門基礎科目は、渋谷キャンパスの夜開講時間帯に指定される。その他の科目については、両キャンパスのすべての授業時間帯で受講できる。

フレックスB〈昼間主〉コース

共通教育プログラムの言語スキル科目群で必修の英語及び専門教育科目の専門基礎科目は、渋谷キャンパスの昼開講時間帯に指定される。その他の科目については、両キャンパスのすべての授業時間帯で受講できる。

【年次別履修単位制限（CAP制）】

年次別に登録できる単位数が制限されているので、年次別の枠を超えて履修することはできない。（P4参照）

1. 神道文化学科

神道文化学部神道文化学科には学科内コースとして「神道文化コース」「宗教文化コース」の2コースがあり、それぞれにふさわしい授業科目群を1年次から配置している。これは学生の関心に応じて主体的に履修科目を選択するための緩やかなコース区分であり、どちらのコースを選択しても他方の授業科目群を履修することができる。コース選択は3年次前期の履修登録時に確定し、これ以降は変更できない。

【卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

A 知識・技能

- (DP-A1) 神道を中心とする日本の伝統文化と社会のあり方に関する基礎知識を身につけている。
- (DP-A2) 国内外の宗教文化に関する基礎知識を身につけている。
- (DP-A3) 神道文化や宗教文化および日本の伝統文化を社会の中で継承・展開するための知識・技能を身につけている。

B 思考力・判断力・表現力

- (DP-B1) 神道・宗教に関わる古典や資料の理解にもとづく思考力や判断力を身につけている。
- (DP-B2) フィールドワークや実技・実習などによって、現代社会の諸事象を考察し、判断する力を身につけている。
- (DP-B3) 神道文化・宗教文化について身につけた知識・技能を文章・言語で表現できる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- (DP-C1) 神道を中心とする日本の伝統文化を自ら協働して学ぼうとすることができる。
- (DP-C2) 国内外の宗教文化について多角的な視点から議論し協調することができる。
- (DP-C3) 多様な人々と協力しながら課題解決に取り組むことができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ、共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

科目群		卒業認定・学位授与方針（DP）									各科目群の教育目標
		知識・技能			思考力・判断力・表現力			主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度			
		A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	
専門基礎科目		◎	◎	○	○	○		○			神道を中心とする日本文化やその広がりである宗教文化の基礎を学ぶことで、関連する事柄への基本的知識や、史資料に基づく思考力などを身につける。
基幹講義科目	神道文化科目群	◎		○	◎			○			神道に関する研究の基本となる祭祀・古典・歴史・思想・神学・国学に関する知識や、関連する史資料に基づく思考力、神道文化を主体的に発信する態度などを身につける。
	宗教文化科目群	○	◎		○	◎			○		世界と日本の宗教文化、宗教に関する考古学や社会学を学ぶことで、宗教文化に関する知識や、現代社会の諸事象を考察する能力を得る。
基幹演習科目		○	○		○			◎		○	主体的な関心に基づく神道文化・宗教文化に関する発表やレポート・論文作成を通じ、社会でも通用するコミュニケーション力や表現力を高める。
展開科目	神職基幹科目群	○		◎	○	○		○			神道に関する専門的な事柄を学び、神社神職として必要となる基本的な知識・技能などを身につける。
	神職社会実践科目群	○		◎		○	◎	○	○		神道をめぐる現代的課題に関する専門的知識や、多角的な視点から考える態度などを身につける。
	宗教文化科目群	○	◎			○			○		国内外の宗教文化に関する専門的な知識を深く理解し、一定の説明能力を身につける。
	伝統文化科目群	○	◎			◎	○	○			神道を中心とする日本文化に関する知識を得るとともに、実技を通じて日本文化を理解する力などを獲得する。
選択科目		○		◎		○		○	○		神道文化、宗教文化を専門的ないし多角的に学ぶことで、これらの文化を広く社会に生かすための知識・技能などを身につける。

【カリキュラムの構成と履修方法※1~6】

神道文化学科専門教育科目※1の構成とその履修方法は、次のとおりである。

科目区分		単位数	履修方法	備考
専門基礎科目※2		20 単位	必修	
基幹講義科目	神道文化科目群	12 単位	選択必修	超過単位は選択科目へ算入
	宗教文化科目群			
基幹演習科目※3		8 単位	選択必修	
展開科目※4	神職基幹科目群	16 単位以上	選択	
	神道社会実践科目群			
	宗教文化科目群			
	伝統文化科目群			
選択科目		8 単位以上	選択	
合計		64 単位以上		

※1 専門教育科目の科目・開講時期・単位数・開講学年については、次ページ以降を参照すること。

※2 1年次開講の専門基礎科目「神道文化基礎演習」はフレックスA〈夜間主〉コース・フレックスB〈昼間主〉コースともそれぞれ複数講座が開講されるが、学生はクラス別編成により指定された講座を受講しなければならない。2年次開講の専門基礎科目「神道文化演習」についても同様とする。

※3 基幹演習科目の履修方法については、P111を参照すること。

※4 「神社祭祀演習Ⅰ」「神社祭祀演習Ⅱ」「神社祭祀演習ⅢA・ⅢB」の履修に際しては、授業開始までに次の用具を準備すること。白衣、白袴袴、白帯、白袴（女子は女子用のネジマチ仕立の白袴）、白足袋（2～3足）、笄（女子は扇くボンポリ）

※5 神職資格（「明階」無試験検定合格・「正階」授与）取得希望者は、P174を参照し、神職課程の履修規程に従い、受講すること。なお、次ページからのカリキュラム表の「神職階位取得に必要な科目」において、当該科目を示している。

※6 本学では明階総合課程を開講している。この課程は4年次からの受講となるが、別に設けた条件を3年次終了までに満たし、受講を認められた者のみ受講可能となる。受講を希望する者は、P177を参照すること。

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				備考 (卒業に必要な単位)	神職階位取得に必要な科目*			明階 総合課程 ※	履修 単位の 枠外 年次別 制限		
				1	2	3	4		必修	列ごとに下記単位数分取得					
										① 4単位	② 4単位			③ 16単位	14単位
専門基礎科目	神道概論Ⅰ	半期	2	○				20単位必修	◎						
	神道概論Ⅱ	半期	2	○					◎						
	神道史学ⅠA	半期	2	○					◎						
	神道史学ⅠB	半期	2	○					◎						
	古典講読ⅠA	半期	2	○					◎						
	古典講読ⅠB	半期	2	○					◎						
	宗教学Ⅰ	半期	2	○								△			
	宗教学Ⅱ	半期	2	○								△			
	神道文化基礎演習	半期	2	○											
神道文化演習	半期	2		○											
基幹講義科目	神道文化科目群	祭祀学Ⅰ	半期	2			○	6科目12単位選択必修	◎						
		祭祀学Ⅱ	半期	2			○		◎						
		神道神学Ⅰ	半期	2			○			△					
		神道神学Ⅱ	半期	2			○			△					
		神道史学ⅡA	半期	2		○			◎						
		神道史学ⅡB	半期	2		○			◎						
		神道思想史学Ⅰ	半期	2		○				△					
		神道思想史学Ⅱ	半期	2		○				△					
		古典講読ⅡA	半期	2		○			◎						
	古典講読ⅡB	半期	2		○		◎								
	国学概論Ⅰ	半期	2		○						△				
	国学概論Ⅱ	半期	2		○						△				
	宗教文化科目群	世界宗教文化論Ⅰ	半期	2	○							△			
		世界宗教文化論Ⅱ	半期	2	○							△			
		日本宗教文化論Ⅰ	半期	2	○							△			
		日本宗教文化論Ⅱ	半期	2	○							△			
		宗教考古学Ⅰ	半期	2		○						△			
		宗教考古学Ⅱ	半期	2		○						△			
宗教社会学Ⅰ		半期	2		○					△					
宗教社会学Ⅱ		半期	2		○					△					
比較文化学Ⅰ		半期	2		○					△					
比較文化学Ⅱ	半期	2		○					△						
基幹演習科目	神道学演習Ⅰ	通年	4			○	1科目4単位選択必修								
	宗教学演習Ⅰ	通年	4			○									
	神道史学演習Ⅰ	通年	4			○									
	神道学演習Ⅱ	通年	4			○	1科目4単位選択必修								
	宗教学演習Ⅱ	通年	4			○									
	神道史学演習Ⅱ	通年	4			○									
展開科目	神職基幹科目群	古典講読ⅢA	半期	2			○	展開科目より16単位以上	◎						
		古典講読ⅢB	半期	2			○		◎						
		祝詞作文Ⅰ	半期	2			○		◎						
		祝詞作文Ⅱ	半期	2			○		◎						
		神社祭祀演習Ⅰ	通年	2		○			◎					◆	
		神社祭祀演習Ⅱ	通年	2		○			◎					◆	
		神社祭祀演習ⅢA	半期	2			○		◎					◆	
		神社祭祀演習ⅢB	半期	2			○		◎					◆	
		神社祭式概論Ⅰ	半期	2	○				◎						
		神社祭式概論Ⅱ	半期	2	○				◎						
	神道社会実践科目群	神社管理研究Ⅰ	半期	2			○					△			
		神社管理研究Ⅱ	半期	2			○					△			
		神社ネットワーク論Ⅰ	半期	2		○							△		
		神社ネットワーク論Ⅱ	半期	2		○							△		
		神道教化概論Ⅰ	半期	2			○		◎						
		神道教化概論Ⅱ	半期	2			○		◎						
		宗教行政研究Ⅰ	半期	2			○		◎						
		宗教行政研究Ⅱ	半期	2			○		◎						
		神道と国際交流Ⅰ	半期	2			○						△		
		神道と国際交流Ⅱ	半期	2			○						△		
神道と環境Ⅰ	半期	2		○						△					
神道と環境Ⅱ	半期	2		○						△					
神道と情報化社会Ⅰ	半期	2			○				△						
神道と情報化社会Ⅱ	半期	2			○				△						

(次ページに続く)

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				備考 (卒業に必要な単位)	神職階位取得に必要な科目*			明階総合課程 ※	履修 単位の 枠外 年次別 制限	
				1	2	3	4		必修	列ごとに下記単位数分取得				
										① 4単位	② 4単位			③ 16単位
展開科目	教派神道研究Ⅰ	半期	2			○					△			
	教派神道研究Ⅱ	半期	2			○					△			
	キリスト教文化研究Ⅰ	半期	2		○						△			
	キリスト教文化研究Ⅱ	半期	2		○						△			
	仏教文化研究Ⅰ	半期	2		○						△			
	仏教文化研究Ⅱ	半期	2		○						△			
	中東文化研究Ⅰ	半期	2			○					△			
	中東文化研究Ⅱ	半期	2			○					△			
	東アジア文化研究Ⅰ	半期	2			○					△			
	東アジア文化研究Ⅱ	半期	2			○					△			
	宗教芸術研究Ⅰ	半期	2			○					△			
	宗教芸術研究Ⅱ	半期	2			○					△			
	宗教音楽研究Ⅰ	半期	2			○					△			
	宗教音楽研究Ⅱ	半期	2			○					△			
	神道と武道Ⅰ	半期	2		○						△			
	神道と武道Ⅱ	半期	2		○						△			
	神道と書道Ⅰ	半期	2			○					△			
	神道と書道Ⅱ	半期	2			○					△			
選択科目	神社実務演習	通年	2				○					□		
	祭祀学特殊講義	半期	2				○					□		
	神道教学特論	半期	2				○					□		
	神道教化システム論	半期	2				○					□		
	神社祭式特論	半期	2				○					□		
	神社管理特論	半期	2				○					□		
	現代時局論	半期	2				○					□		
	日本史概論Ⅰ	半期	2	○										
	日本史概論Ⅱ	半期	2	○										
	東洋史概論Ⅰ	半期	2	○										
	東洋史概論Ⅱ	半期	2	○										
	西洋史概論Ⅰ	半期	2	○										
	西洋史概論Ⅱ	半期	2	○										
	倫理学A	半期	2	○										
	倫理学B	半期	2	○										
	心理学A	半期	2			○								
	心理学B	半期	2			○								
	憲法ⅠA	半期	2		○									
	憲法ⅠB	半期	2		○									
	社会経済学	半期	2		○									
	政治学概論	半期	2	○										
	哲学概論A	半期	2			○								
	哲学概論B	半期	2			○								
	社会学A	半期	2				○							
社会学B	半期	2				○								
国際法の基礎	半期	2		○										
国際紛争処理法	半期	2				○								
国際政治A	半期	2		○										
国際政治B	半期	2		○										
社会保障論	半期	2		○										

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※神職階位取得に必要な科目は、◎が必修、△が選択必修を示す。また、□は明階総合課程に必要な科目を示し、卒業要件単位に算入することはできるが、明階総合課程の単位として認定されるには、受講許可を受けていなければならない（P177参照）。

◆で示す授業科目は、年次別履修単位制限のうちに含まれない。

2. 基幹演習科目及び演習論文について

【基幹演習科目の趣旨・目的】

神道文化学部生は2年次までに、神道を中心とする日本の伝統文化や関連する内外の宗教文化についての基本的な理解を得ると共に、研究視点や研究法の基礎を身につけることとなっている。そして3年次からは、各自の主眼的な関心に基づいて学修研究を進めていくことになる。その中心的な場となるのが、3・4年次に履修する基幹演習科目である。

演習では、担当教員の指導を受けながら、各自が研究計画を立て、調査、資料収集を行って分析、考察し、その成果を発表する機会が与えられる。また、発表や他の受講者との討議を通じて、互いに問題関心を共有しつつ、研究を深めていく。受講者自身の積極的な参加が求められる。

3年次には、主として研究法や論文作成の基礎を学び、6,000字以上の中間レポートの作成に取り組む。

4年次には、12,000字以上の演習論文を作成し、4年間の大学生活の集大成となる研究成果をまとめあげる。

なお、1・2年次のうちから、テーマの選定や希望する指導教員の情報などに留意するとともに、各教員の専門分野を参考にして、やや広めのテーマ設定を心がけてほしい。

【基幹演習科目の履修方法】

- 1) 選択必修の基幹演習科目に充当する2科目8単位については、3年次に演習Ⅰを、4年次に演習Ⅱをそれぞれ1科目4単位ずつ履修しなければならない。
- 2) 原則として、同一教員の演習を3・4年次に連続して履修すること。
- 3) 3年次に演習Ⅰを修得できなかった場合は、4年次に演習Ⅰと演習Ⅱを並行して履修することができる。
- 4) 上記1)に示した履修科目数・単位数を超えて履修しようとする場合、演習テーマが異なれば、同一年度に複数の演習を履修できる。

【演習論文の指導教員】

演習論文の作成指導と評価は、4年次に履修する演習Ⅱの担当教員が行う。

【演習論文の指導計画】

授業開始時に指導教員から、以下のような項目について年間の計画が示される。

- ・ 題目の提出
- ・ 中間発表、または中間レポート提出
- ・ 最終提出期日、及び提出先

いずれも所定の期日を厳守して、計画的に論文を完成させること。

【論文の用紙ならびに枚数・体裁】

以下の体裁で作成した論文に所定の表紙をつけて提出する。表紙の様式については提出する年度の授業時に指示する。

作成方法	文字方向	用紙	1枚の文字数	枚数(ページ数)
手書き※	縦書き	B4判 原稿用紙	400字詰 (20字×20行)	30枚(中折り・裏表 60ページ)以上
	横書き	A4判 原稿用紙	400字詰 (20字×20行)	30枚(30ページ)以上
パソコン使用	縦書き	A4判横向きまたは B5判横向き無地	1200字	10枚以上
	横書き	A4判縦向きまたは B5判縦向き無地	1200字	10枚以上

※ 手書きの場合、ペンまたはボールペン(消せないもの)で書くこと。